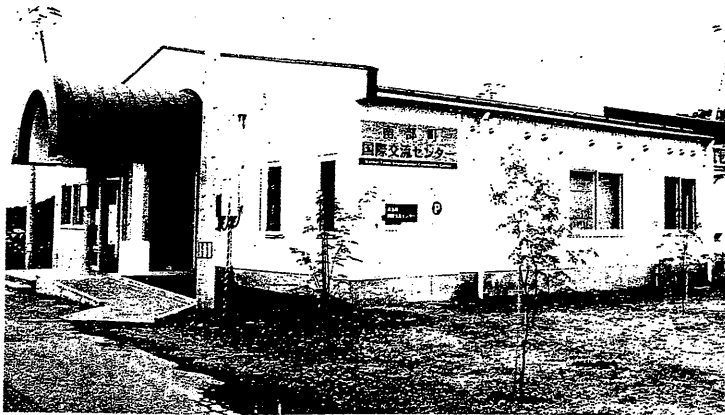


国際交流センター開設

南部町 外国人人材育成の拠点

南部町は17日、介護士を目指す外国人留学生の支援や国際交流の拠点として、同町平虚空蔵に町国際交流センターを開設した。施設は旧名川病院検診棟を改修し、10月から定期的に日本語教室を開催。近くの医師住宅2棟も留学生の受け入れに活用し、外国人の人材育成、確保を図る。

（上條哲洋）



介護福祉分野の外国人人材育成拠点として開設された南部町国際交流センター＝17日、同町

人口減少や高齢化で介護福祉分野の担い手不足が懸念される中、町は外国人留学生の支援事業に着手。福祉事業者が受け入れる留学生の住環境や語学習得をサポートし、将来的に同町で就職、定住してもらうことを目指している。

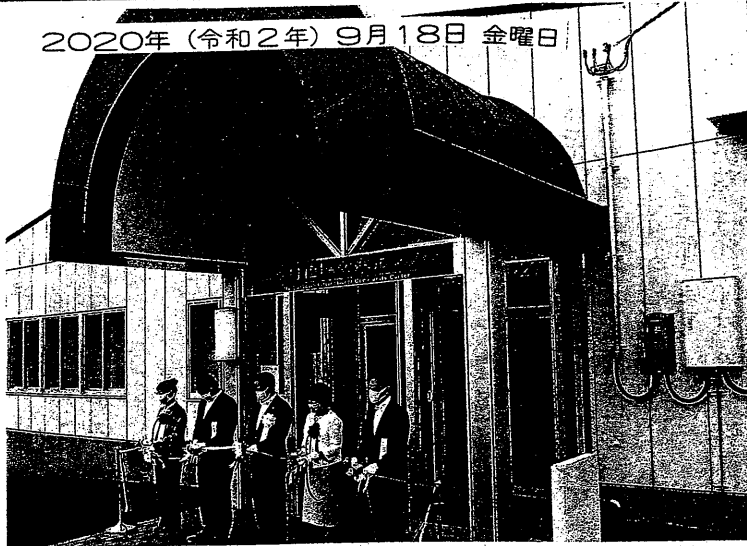
留学生は町外の専門学校で1年間、日本語を学んだ後に来町。八戸学院大短期大学の介護福祉学科で学びながら、福祉施設で研修を重ねる。町への留学生受け入れは2022年4月にも始まる見込み。

同センターは鉄骨造り平屋で延べ床面積約500㎡。複数の研修室を備える。町内では、既に外国人の人材が福祉施設などに勤務しており、日本語教室などを通じて留学生以外の外国人の語学習得や交流も支援する。

同日開かれたオープニングセレモニー後、工藤祐直

町長は取材に「福祉関係だけでなく、農業でも従事してもらうことを検討している」と説明。「町で暮らす上で重要な地域コミュニケーションの形成や語学習得の拠点施設としてセンターを有効活用したい」と述べた。同センターの開設は当初、6月の予定だったが、新型コロナウイルスの影響でずれ込んでいた。

2020年(令和2年)9月18日 金曜日



南部町国際交流センターの開設を祝い、テープカットする関係者

人口減少や高齢化により深刻化する中、町は留学生介護現場での労働力不足が受け入れに向けて介護福祉

学科がある八戸学院大学短期大学部(八戸市)などと連携。同センター近くにあい、現在は使われていない住宅2棟を留学生に無償で提供する。1棟に5人程度暮らすことができ、10人程度の受け入れが可能で、早ければ2022年度から入居する。留学生が卒業した後は、町内で介護施設を運営する6事業者が1〜2人ずつ職場に受け入れる予定だ。

一方、同センターは旧名川病院検診棟を改修した。鉄骨平屋で床面積490平方㍍、改修費用は1852万円。10月から町内外の外国人を対象に、町主催の無料の日本語教室を月数回開くほか、外国人と住民との交流イベントなども随

南部町は、介護士を目指す外国人留学生が卒業後に町内施設で就職・定住することを目指す。留学生受け入れ事業に本年度から乗り出した。その一環として17日、外国人の支援や地域住民との交流の拠点となる「町国際交流センター」を平地区に開設した。

(若佐谷雅之)

南部に介護人材の就職・定住を 町が留学生受け入れ事業

国際交流センター開設 住宅も用意

時間短縮にしている。6月にオープンする予定だったが、新型コロナウイルスの影響でずれ込んでいた。

オープンを祝って17日に行ったセレモニーの後、工藤拓直町長は報道陣の取材に「福祉や農業関係の雇用確保が非常に難しくなっており、先々を考えれば外国人の雇用が必要になってくる」と語り、センターが果たす役割に期待した。